

# 保育の實際

## 保育記録のかずく

大分市幼稚園長

田北みつ

半間の戸棚からあふれ出ようとしていた子供についての記録は、全部B29の爲灰になつてしまつた。其の時は後の爲に書き残したものではなくて、子供と共にいるうち出来てしまつたので、左程何ともなかつたけれど、今考えればなつかしく戀しいものばかりでならない。

### ○日誌

それは受持の幼児全部一人／＼の日誌で、一人一枚宛十行の郵便紙を二十行に使用し、三十人に三十枚を用いた。名前と月日は郵便の外に記しその下に出来る丈こまかい字で、出来る丈簡單に要を得る様に書いたつもりが、月を重ねるにつれて、一人で五枚七枚となり、他の表と共に戸棚の中にうす高くなつて行つた。

四月九日入園式

F子 附添母。(弟をおぶつている)この子高く色白し。皮

膚に弾力なく目は兎の耳の風になびきたるが如し。母親ふみちゃんと呼ぶ。

M子 目黒くまつ毛長し、目尻に神経質と察せらるゝ影を見る。偏食をなすにや。

歸宅直前大聲にて泣く。張りきりの弓弦のきれたるが如き様なり。附添祖母。まつすぐ向け／＼と言う。

等と一人／＼について書いたもので、その最初のページはインクの色から字の形までがはつきりと残つてゐる。さて之は何でもない事の様で精魂をかたむけつくした。

子供を送り出して何もしないうち取りちらした部屋の机でも早く靜かに記しておかねば、三十人三十様を忘れてしまふそうだし、一日中少しでもぼんやりしていると、書く材料のない子供と同右と記し度い者が出来てしまふ。二學期も終り近くなると馴れてしまつて、赤も白も點も同じ色には見えないうまでもぼやけて来る。もう中止になるのではないかと幾度もなやまされたのを、意地からも一人々々をみつめ様として暮した。三月の卒業の前と／＼この日記を書きつゞけ、うす高く戸棚からあふれ出ようとした時、やれ／＼とほつとしたもので、我乍らよくぞと思ひ幾度も繰り返し讀んでは其子等を送つた。

出席日數一人二百五十日としてその三十人分延七千五百日。私一人の日誌なら二十年分のを一年間に書いたことなる。

### ○家庭訪問録

之は自分で西洋紙に印刷をして用いた。日別に記入出来る様にして、幼児名、訪問理由、家庭との交渉大要（詳細は日誌に記入した）等を書いた。喧嘩をしたと行き、こぶが出て尋ね、體溫表を持つてゆき、何ヶ月も口を開かぬから何か私に話しかける材料を作つて、それも交渉の長引く様なもの、觀察の材料等を不自然にならない様に與えて貰い度いなどこま／＼と相談をした。昨日、今日、明日、とつゞけて訪問した事もあつたし、只家での様子が見度い爲遊びに行つた事もあつた。

### ○缺席者名簿

之は家庭訪問録の横を少しさいて用いた。氏名と届出の有無（電話、手紙、口言傳）と其理由とを記した。

### ○體溫表

最初はグラフで各人別に内科の醫者で足れる様な熱計表を私が記入して家庭に通知したが、之は四月丈で中止し五月から更えた。

畫用紙半枚に、各月によつて形の異なる色々なものを印刷し（花とか虫とか魚とか）、有熱は赤、無熱は青と定めて、子供達が自分でそれに色をつけ、靴に入れて持つて歸つた。然し之は赤の時だけ。檢溫器を出來るだけ短時間に三十人に使用して嫌な思ひをさせない様に、又檢溫に對しての態度も間違いない様にと念じ、それ等の爲にも家庭との聯絡の爲にも、子

供達の遊びの爲にもこの表はまことに役にたち、彼等もせつせとの表の出來上つてゆくのを楽しんでた。檢溫の時間（十時）に寒暖計の繪をかいたカードを入口の柱にかけておくとそれをみて思ひ／＼の部屋に入つて來る。後には時計の繪のカードと並べてかけておき三學期には時計だけを出しておくと／＼と上つて來たものだつた。

部屋に入つた子供は二枚ある疊の上にはずらりと並んで腰かけてまつ。馴れて來た頃私がわざと間違つてやると、先生まだ少し時間が早いよと腋下をしつかりおさへてじつとしてゐる者等出來るとも嬉しかつた。時たま腋に入れてゐる事を忘れて、何かにみとろけてひよろりと立上り、檢溫器を破してしまふ事があるが、水銀の玉がころ／＼ころがつてゐる事で檢溫器の構造と取扱いが解つたなとあきらめたものだつた。

すんだ後ボタンをさつさとかける者、友達にして貰う者、エプロンの紐を結びあう者等をみでいると八方に目を配つてゐた思ひがみんな喜びになつて身にしみてくる。私は六つの子供の一人で出來る事、しなくてはならぬこと、という約束で、衣類のぬぎ着は一人でなし、出來ぬ場合同志で助けあい更に出來ぬ折に大人に助け貰うことにしてゐたので、エプロンの紐をした／＼かか／＼つて逆結びにして貰い乍ら、先生赤や青？と聞く、青と言うとあよかつたよかつたと言ひ乍ら戸棚から自分の手箱を出して來て、其日の體溫表に色をつける。そして體溫表は美しい千代紙ばりの箱の中へ入れ、クレ

オンを始末してまつさと戸外に出てゆく。又何を思つてか體温表といつまでもにらみ合つてゐる子もある。

七度一分からが赤になる事になつてゐるのであつた赤が一つ出来たとくやしがるのがある。三學期の頃赤がつゞき、どうしたのかなと私が心配すると十一月の表の山の繪の青葉ばかり並んだのとダルマの赤いのをくらべて、こんちましようと鐵ちやんは叫んだし、體温表と給食表と便通表とを見くらべて首を傾け乍らおかしいわあと言つていた敦子ちやんも居た。かうして随分むづかしい六歳の子供が自分の體質にふれると言ふ事を、遊びつゝ自然のうちに知つたと意識せずによつてしまつた。

### ○便通表

何も彼も表だらけだが、あまり困りもせず、之も六月の終る頃からは自分達で記入出来る様になり、各兒もつとめて朝便通をつけて来ようとする習慣に導くことが出来た。

この表は各兒の名前を書いた上に蝶、舟、星という様に貼つておく。この貼り方にも少からぬ時間をかけたもので、積木ばかりを並べてブー／＼と遊ぶ烈さんの名の上には自動車の繪を、驛にお父さんも兄さんも出る敦ちやんには汽車の繪を、齒醫者の敦ちやんには齒ブラシの繪をという様に。

子供達はこの繪をみて其の下につゞく自分の名を野中烈と言ふ繪にしてしまふらしく自分の名丈でなく人の分までおぼえてしまつて、毎朝便通の有つた者○無い者△に定めてある

と、

おい大ちゃん、お前今はうんこ出たか。びりびりと違うか。俺が書いてやらかと工藤大八郎の下へ○をつける者がある。四月の頃は毎朝を一人々々うんこ出たのと尋ねていたものが、そんなこと聞かれても之は生活の一部であると變な顔もなくなつて来て、私がじつと表をみていると、敦子ちやん等、あら婦美ちやん忘れちよる。あゝあ又恥しいと思つて書かんのやろと婦美ちやんを尋ね廻して来て記入したりして、苦もなく出来て行つた。五月雨の頃は戸外に出られず表のよみあいこをしてよく遊んだりした。

### ○給食表

偏食矯正の爲、又は營養食の爲野菜味噌汁を主にして副食物の給食をお母さん達の加勢でやつていたが、驚く程おいしくて子供どころか好き嫌いの多い私もこの味噌汁はよく吸つたが、只煮干しの粕だの味噌の中の麥の芽だのが出てくると、目をつぶつてこくりと呑み込みやれ／＼これで表が汚れず子供にも申譯たつと忪から思つて、子供の表と私のも並べておいたので子供達も張り合つて大きいグラフ用紙の各兒の名前の上に飛行機だの櫻だのを缺けない様に貼ろうとした。これで餘程特種でない限りの嫌いなものはなくなり、お母さん方も大部考えさせられたとの話であつた。

同じと言ふ事が子供達にとり何を興えるかを考えさせられ、この點ロシアの保育事業を餘程學び度いと思ふ。

## ○缺席表

これもグラフ用紙の大きいのに色は赤でぬつてした。後になつて不統一の市松模様が出来て皆面白がつたが、當番をよく書き忘れるので私が目を離さなかつた。

## ○食事調査

毎朝食をどれ位取るかを調査しそれにより、生活様式を知り健康状態を知り度いと思ひ更に、食量についての考えもふれさせ度かつたので何杯喰べたかを茶碗の繪の數で各兒に表させ様と思つたが苦勞に感じる様にあつたし、どうせ自分で數字に引直しパーセントを出す考えだつたので、遂にその繁雜も避ける爲からも、私が一人々々遊びの邪魔にならない様に、すぐにノードに數字を記入した。二杯と定つてゐる者。

一、二、三杯わけなしの者等あつたが、七月の始め頃僕も先生定めといたよ。といふ聲が出て来て嬉しかつた。茶碗にもよりけりだけど最初の時十パイ。百パイというのがあつてこの爲家庭訪問録にもぎわつたわけだつたが。

## ○天候調査

これは天氣晴と赤でお日様の繪、雲り、青で雲の繪、雨、黒で傘の繪を以て記入する事にして一人で一週間宛受持つた。缺席の時は替りの書手が多くて困つてしまつた。用紙は繪巻物で日を記入した紙に野を引いて、私が作つておいた。

丁度梅雨の頃は日傘がつゞいたのにあきたのか雨にぬれた傘としてあり、笑つてしまつたがとうとう誰が雨を降らしたのか解らず終いだつた。

## ○家庭調査

家族の年齢、既應症、偏食の如何。母乳か人口營養か、好みの食物。嫌いのもの。友人關係、どんな遊びを好むか。入園前主として養育に當つた人(母か祖母か)等これは小學校でもやつてゐることである。

## ○身體検査表

毎月一回身長體重胸圍を、最初十五日にやつた關係からいつも十五日に決つて行つた。

全體からみて一ケ年のうちの月がよく太つたか、等を楽しい思ひで表をみては暮した。わずか三十人の一ケ年のグラフに表はれたものがこれ丈の力強さと喜びを興えて呉れるのだから、このまゝ一年生二年生とつゞいてこの表をつける事が出来たらと、私も彼等と共に學校についてゆき度い思ひがしてならなかつたし亦、何百人何千人と同じ年配の者の表も集め度いなど次々と欲が出て來たものだつた。子供達も表の前に立つて、見よ俺は何でも喰べるから、熱もないし、うんこも○ばかりでよう太つたらが。等々と意張つてゐるのもあれば、僕缺席しないし、給食も何でも喰べるしごはんも定つとるのに一つも大きゆうならん、先生どしたから。と尋ねら

れて嬉しくてこまつたものだつた。表のうちでも最もなつかしいこの表も今はない。

### ○名前のない表

今一つ名前をつけられよくてそのまゝ持つていた西洋紙のノートには月曜毎に、昨日家で何をした? と尋ねてその事を記入した。

これは随分役に立つて、日誌と共に各児の色あいをみるのに都合がよかつた。殆んど一年中、何もせんちやつた。というのがあつたが、これ等は淡い色の子供であろう。然し灰色の淡さと桃色の淡さとは違ふ。淡い水色の様な子供の熱の出し方と、一年間殆んど無熱で送れた子供の色合いと、等と之を見乍ら表が又表を作らして面白かつた。

男の子でいつもまゝごとと言うのがあつたので家庭訪問録と照らし合せてみると、なるほど痛快だつた。お手傳、お守、本當に殆んどこれで暮していた敦子ちゃんのを、又個人でのお手傳い表が出来上つて、どうも私はこの年は表に取りつかれていたのでないかとさえ後になつて、苦笑してしまつた。かうして毎日の生活から圖表が圖表から保育が進められ、圖表作りが幼稚園の各項目に、描き方、貼り方、割り方、遊び等とあてはまり、どこ迄が家庭かどこ迄が幼稚園での仕事かとんとわからなくなつてしまつた。

まだこの外に、乳齒の抜ける時期の子供等のための齒みがきの表、一錢二錢と買ひ喰ひをする子の爲の空箱の貯金

箱作りと、之に入れるお金を紙型で作り、毎日検査してお母さんと通帳を作つてみたりして三十人三十様の表が、積み重ねられて行つた。

### ○議事堂の木をしらべる

長たらしい科學者の言う様な名前をつけて、研究? を始めて又六歳の子供の頭によつて美事な表が(私に取つて)出来上つた。これは一年間を通じてのものではなく、秋であり、戸外を走り廻ります爲にもした事でもあり、この二つの目的は本當に遊ぶ事によつて、私自身ですら目的を忘れていた程にあつたので、他人が見たらさぞ幼稚園の先生の仕事のやさしいことを笑つたであらうと思われた。毎日議事堂の庭の中を走り廻つて同じ種類の木を探し求めた繪と言えば繪、表と言えれば表、他人にはあまり別りなくいもので、間違ひはないかと一人一人走り廻さした。松の木が一番多く、栂、梅と夏みかん等十日の上つゞけて通つてやつと出来上つたが梅の木は葉が落ちていて何の木かわからず随分苦勞していた様子だつたがたつた一人英ちゃんが知つていて、その折は衆議が一決せず私に判決を仰いで來た。はつきり梅の木と致えてやつたが、栂はとがつた葉の木で名前等どうでもよかつたらしく、ひらぎとは誰もおぼえて呉れなかつた。私も名前を教える爲出かけたのではなかつたので最後までそれで通した。

徹さんのお母さんがわざ／＼「木登りをやめて家でも庭の

木をあれこれとみて松の木が一番多い等話し、木には葉の落ちるのと落ちないのがあるよと勢えて呉れました」とお禮に見えられて遊び方の變つたのを喜んでいられた。梅の木を知つていた英ちゃん、一年生になつて間もなく、學校のかえりをふろ〜とやつて来て

「先生議事堂の梅の葉が美しくなつたよ」と

若芽の萌え初めたのを知らしてくれて、つい私は一年生の先生について行つてなり度いと切に思つたものだつた。

これ等表ぜめの様な中にいて、毎日を暮してゆく私は、體質と體格の平行しない事を知り、熱によつてその子供の體質を知ること出来てこれ等をかき終えた夕ぐれおそく家に歸る頃には次の日の保育案、字にされない保育案が三十人三十様に出来てしまつた。

私はその保育案を提げてふらり〜とだまつて子供と遊びつゝ芯から底から子供をみた。私の方が子供より先に泣き喜び喧嘩もするほどに、時にはパチ〜とお尻をたゝいて泣いたこともある程に。

こんな倅に生くる私は、世の中の誰よりも何よりも一番嬉し〜私である。

誘導  
保育

## 郵便やさんごっこ (二)

東京女高師附屬幼稚園

宮本杏子

### 四 第二日目へつゞけて

朝ポツポツ来た子から墨繪を書きます。子供は朝登園するところからまだポストをあげないの〜と大さわぎです。お友達も澤山いらしてからねと待つてもらいます。郵便局員は朝から郵便局の中にはいりこんで畫をかきにも出て来ません。昨日のように、おま〜ごとの人達と電話で話したり「葉書を買ひに来て下さあいとどなつたりしています。そこで郵便局の中の人に、先生が勧誘の電話をかけます

「KちゃんもTちゃんも墨繪をかいていらつしやいますよ。

御存知でしょうか」

「は〜」

「Yちゃんにも、Aちゃんにも、かきにいらつしやいとお傳え下さいね」

返事はなか〜いゝ返事でしたが、待つていても終に出ては来ませんでした。

大體墨繪がかき上つた頃、人もそろつたので待望のポストを開けます。二人が肩からかばんを下げて出かけて行きます。先日、郵便局見學の時、ポストを開けるのにぶつかつた